

## -2 セーフコミュニティ 篠町自治会の活動

井内 邦典 亀岡市篠町自治会長



みなさんこんにちは。これから篠町のセーフコミュニティについての取組をご説明申し上げます。篠町でもまだこれからセーフコミュニティに取り組んでいき、こういうことをするのだという形では明確には伝えておりません。これからのことです。これからご説明申し上げますことは、ほとんどの方がもうすでに取り組んできているであろうことがたくさんあります。



篠町というのは、亀岡の東の玄関口にありまして、亀岡市の縮図です。亀岡市にあるものはすべてあります。いいサンプル地帯だと思います。人口は1万8千人、所帯数は6,200所帯ありまして、それを36の地区で構成します。自治会館が1つと、36の地区単位の公民館というのがありますし、学校は2つの中学校、3つの小学校、幼稚園が1つ、保育園が3つ、消防署、文化センター、図書館、市民病院を始め、医療機関がたくさんあります。



各科のお医者さんもたくさん住んでおられます。デイサービス等の福祉の施設も整っております。集落は駅前の高層住宅から始まりまして、高層住宅、住宅地、そして旧集落が混在しておりますし、京阪神へのベッドタウンとして人口がなお増え続けているところであります。この老ノ坂で、国道で京都につながり、JRで馬堀駅から京都につながるというところでございます。



篠町では活発にまちづくり活動ということを行っております。にぎわいのある町、このにぎわいというのをテーマにしまして、人がお互いに挨拶をする、また立ち話ができる、さらにもっと深い絆ができる。こういった人の絆ができあがっているのが、にぎやかな社会であり、こういったことは、自分たちでやろうと思えば自分たちでできることです。

篠町では、これを自分たちでやろうということで活動していきまして、今年で4年目になります。毎年このようなアクションプランということで、どういうことを具体的にやるのか決めて進めまして、現在は2007年度、4年度のプログラムを実行しているところであります。

具体的には1番から、めがね橋を中心に案内板を立てたり、篠町宣言といってゴミのポイ捨てや犬の糞をなくす町にしようと呼びかけをしたり、このようなエリアを増やそうとしています。

2番目はどんなことかといいますと、馬堀駅前七夕であるとか、千灯会であるとか、門松といったものを飾り、人のふれあいの場所をつくる大きなイベントをやるということ。

3番目は安心・安全のまちづくり、今年はセーフコミュニティで、日本で最初の認証をとるための手助けをしようということも含んでいます、実は昨年から取り入れていまして、篠町のふれあいマップだとか、安心・安全で暮らすための自主防災訓練とか、いろんなことをやっております。

4番目は、こういう様々なまちづくりを実施するには、区長を始め各種団体の役員が必要となりますが、現役で仕事をしておられる人は簡単には集まらない。ボランティアには時間が余っていて、多様性のある人材が必要なわけですから、別の形でまちづくりのために、たとえば長尾山に市民参画で散歩道をつくりますよ、農園を耕しますよ、めがね橋を掃除しましょう、といるいな切り口で絶えず人を集めています。集まってきてもらった人は、そこで活動して交流を深めてもらう、そして今度はまちづくり活動をしてもらうという仕掛けを作っています。

5番目はコミュニケーションの強化と、町民の交流の拡大、特にたくさんの人達が住んでいますので、私たちは双方向のコミュニケーションを行うようにしています。自治会便り、ホームページ、区長便りなどいろいろな形で発信して、自治会館でしたら、毎日9時から3時まで暇だったら来てくださいといった形の運動をしています。

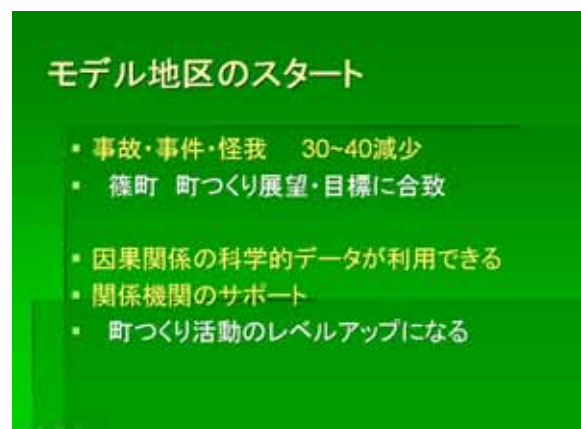
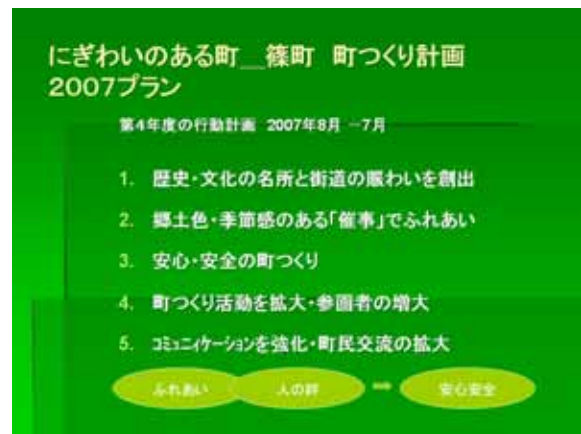
6番目は親子の交流、親子揃って来てくださいというイベント、凧作り教室や凧揚げ大会、星空観察というようなことをやっております。いずれも人々のふれあいをつくろう、人と人との絆、関係をつくろう、こういったふれあいと人の絆があることが、安心・安全に繋がるのだということが、私たちのまちづくりのテーマです。

私たちは自分たちでも良くやっているな、順調にしているなと評価しているのですが、外部からも高く評価されていまして、大変光栄だと思っております。

今年の2月には自主防災会が知事表彰を受けまして、3月は亀岡市から熟年パワー発揮団体ということで第1号の認定を頂きました。8月には、めがね橋の環境整備で国土交通省と道路協会の2つの団体から表彰されるなど、外部からも高く評価されたということは幸いなことであります。

それでは、セーフコミュニティについてですが、セーフコミュニティは、昨年11月に、市役所のこんな話から始まりました。

「セーフコミュニティのモデル地区になってくれませんか」ろ話がありまして、私はいろんなことを頼まれるので、今度は何をやるのですかと聞いたら、「篠町はまちづくりを一生懸命やってるから基盤整備が足りない、社会の基礎、活動の組織、そういったものができているから、何もしなくてもいいくらいですよ。亀岡市はこれからWHOの日本1号の認証を受けるためにチャレンジするので協力してください。」と言われた





ので、セーフコミュニティってなんですかと聞いたら、簡単な説明があったのです。そのとき、確かにこれは素晴らしいことだと、絶対に地域あげてやらなくてはいけないと思いました。

すぐ帰って、区長会を開きまして、みんなと相談しました。そしたら、みんなでやろうということになりまして、何をするかなどについて話し合いました。

1つは、取り組んだ結果、事故や事件やケガは30%~40%減るということは過去に提唱されている、これは私たちが言いました、まちづくりの安心・安全を高めるといった目標と全く合致します。これは素晴らしいことです。

2つめは、因果関係といったものを科学的データ、関係機関でもサポートします。これは大変素晴らしいことだと思います。私たちはまちづくりをするのに、町の住民だけが集まってやるのではなく、専門なところとか、専門なノウハウを持ち込んで、一緒に仕事ができるというのはこれからのまちづくり活動のレベルアップにも繋がる、ということで私たちはこれを絶対やろうと決めました。今もこれは効果があると確信して動いているところです。



その後、セーフコミュニティとして最初に取り組んだことは、地域で現況を知ることです。まず、説明会を開催し、4回のワークショップを行いました。その中で熱心に討議しました。地域の現状を知るといって我々が経験的・感覚的に知っている問題というのはだいたい5つ6つありました。子どもの安全、高齢者の安全、交通の安全の問題、犯罪に対する安全、災害に対する安全、こういった問題が的を射て出てきました。

ワークショップから出てきたこういった事実、京都市、亀岡市、保健所などの力を借り、公的機関のデータを照らし合わせて、私たちもいくつかの分科会だとか推進会、いろんな形でこの取組をいたしまして、現在は篠町でセーフコミュニティのアクションプランという形で、5つの項目で発表しようというふうに考えています。



その1つめは、向こう三軒両隣の篠町のふれあいマップ、みなさんもご存じのように、向こう三軒両隣という素晴らしい良好な関係があったのです。今、それが薄れているところに、いろんな問題がある。

そこで、このいい制度をもう一度復活させようということで、何をするかといったら、20所帯ほどからできている隣組の人が集まって、白い大きな紙に手書きで、家の名前を書くのです。そしてその当主の名前を書く。ここに書いてあるのは、1つは昼間の家族数、こちらは夜間の家族数、印は災害時の要支援者、は高齢者といった形で、自分の町の中にはどういう人がいるのかを記す。2つめは、災害時の一時避難場所と大きな災害が起こって、亀岡市に災害対策本部が設置されてそのときに開かれる避難所です。これを家族が誰でも知っているということは、外で働いている人はたくさんいますから、帰って来て連絡がつかないときの情報センターにも



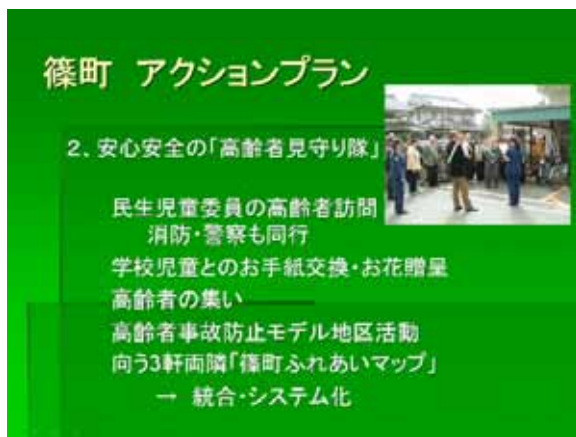
なるわけです。

このマップは、このような形で、隣近所で集まってつくるわけです。そして活用は、高齢者の見守りにもなりますし、災害の要支援者というだけではなく、健康な人も、様々なことの見守りという形で大変役に立つと思います。こういうものをつくって問題になるのは、保管はどうするのかということです。これは隣組の人間が知っていればいいことですから、隣組の人間の頭に入れたら破って捨ててもいいのです。

篠町では何も、区長に提出しろとか、自治会長に提出しろとか言っていません。「各隣組でつくってください。」「区長、あなたのところではつくりましたか。」そのイエス・ノーだけでどこまで浸透しているかを量ろうという方式でやっております。

かたや、亀岡市ではふれあいのネットワーク制度に取り組んでいます。私たちはこれらが補完しあっていくことが、一番うまく動いていく方向だと考えています。

このふれあいマップはセーフコミュニティになって始めたものではありません。この亀岡市のふれあいネットワーク制度がスタートした時点でスタートしました。しかしまだ、浸透率がそんなに高くありません。セーフコミュニティを機会にこれを全町に拡大していこうというのがアクションプランの1つめでございます。



2つめは各種の安心・安全の見守り隊というものを考えています。1つは高齢者見守り隊ですが、現在篠町においては、一人暮らしの高齢者が、二百数十名おられます。民生、児童委員は担当を決めまして、それらの人たちを少なくとも2ヶ月に1回はカバーしています。実際訪問する場合、電話で安否を確認する、そしてまた、自分たちだけではなく、消防と一緒に廻ります。これは防火の観点から、警察は防犯との観点から、民生・児童委員さんと同行して廻るということをしています。

学校の児童が、手紙や花をつくってこれを高齢者に届けるということもしています。また、高齢者の集いということで、高齢者の方に集まってもらって、食事会をして、コミュニケーションをもってもらおうということや、1年前から篠町は警察署の高齢者事故防止モデル地区に指定されまして、高齢者の事故をなくすための取組を進めています。

そのときのキャンペーンの1つなのですが、高齢者は自分たちの勉強する場だけじゃなしに、自分たちが学んだことを、他の高齢者にも広め、活動に参加するように働きかけていこうとしています。そして、先ほどいいました「向こう三軒両隣」ふれあいマップ、こういったことを総合しながら高齢者を見守るということをしていきたいと思っています。

安心・安全の2つめは子ども見守り隊です。亀岡市は全町内にわたって学校のガードマン制があると聞いております。そして、その他にも子ども見守り隊、これは各地各様のものがあります。篠町にもいろいろな子ども見守り隊があります。

学校は危険箇所の把握、通学の安全、不審者情報に対して、マップもつくっていますし、子ども110番





の家も完備されています。学校安全メールという情報に基づく緊急連絡網、あるいは対応ということも現在取りかかっています。



る道のそばで、その時間は作業をしてくださいと、できるだけ水曜日は子どもを全員で迎えるのです。

次は、安心・安全の防犯パトロールです。これは防犯推進委員が非常に熱心でして、篠町の地区内を自治会の車をパトカーにしまして、ブルーの回転灯をつけて、毎週土曜日、8時から全町をくまなく廻り、防犯を訴えています。かたや、他のみなさんは、保育園や学校やいろんなところへ行って、防犯の知識を普及する防犯劇も演じておられます。

3番目には、南丹元気づくり体操というのがありますが、これは京都府南丹保健所が高齢者の転倒予防のために開発した運動です。篠町には14名のインストラクターがいらっしゃって、いくつかのグループが活動されていますが、活動しているところが非常に限定されています。何が問題なのだろうと、いろんな話をしてみたら、なかなか人を集めるのが難しい。じゃ、自治会や区長がそういう機会をできるだけつくりましょう、これは1つの解決策ですね。

2番目は、講習会場。これは自治会館については無料で貸しますよと。最近、公民館・集会所等も洋間が多くて、このうえではなかなかできにくいというので、マットを準備しまして、音楽やビデオがあったらやりやすいというので、ビデオも買って、もっと南丹元気づくり体操を広めて、転倒といったことを防



こういったことも踏まえた上で、篠町やつつじヶ丘の多くの地域では、この10月から、毎週水曜日は子ども出迎え日ということを始めようとしています。これは何かといいますと、水曜日の子どもの帰ってくる時間に、家の前の掃除をしたり、お花に水をやったりしよう。

買い物に行くときは、子どもの帰ってくる前か後に行ってくださいと、お店の前でついでに、子ども見守り隊に参加してくださいと、犬と一緒に散歩する人、1人で散歩する人、そういう人もこの時間に散歩してくださいと、農業をされている方は子どもの帰って



止していこうと。

さらに、私たちは運動会とか各種のスポーツ大会をやっています。十分な準備体操をして取り組んでいるのですが、今後は、南丹元気づくり体操をこういったところのストレッチ運動にも取り入れたいと。そして学校の運動会などのときにも取り入れていったらいいのではないかと考えています。

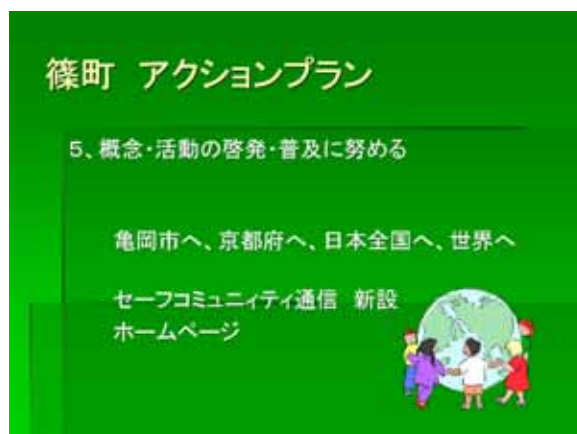
4つ目は今までやってきたまちづくりのいろんな活

動、こういったものをどんどんやって、人と人の基盤をつくって楽しみながら、人が互いに交流をしていくことを推進しながら、セーフコミュニティをつくる大きな原動力としていこうと考えています。

5つ目にはですね、このプロジェクトというものは、社会が取り組み方を変える。そのためには我々が考え方だとかを良く理解しなくてはいけないわけです。そういった意味で私たちは、セーフコミュニティの概念をやっていることをみんなに良く知ってもらって、よく分かってほしい。そして、社会全体で安全に対する意識を変えようということを考えています。

こういった普及活動というのを5番目の柱としまして、亀岡市全体にも京都府にも、日本中、世界中のネットに繋がるわけですから、そういうところへの情報発信ができていけたらいいなと考えています。

実際には、来月からセーフコミュニティ通信というのを、発行していきたいと思っておりますし、篠町自治会のホームページにセーフコミュニティのコラムをもう少し増やして、もっとコミュニケーションにつとめ、これを周知していきたいと考えています。



以上が篠町のセーフコミュニティの取り組みだと、発表しようとしていることです。安全というのがみんなの願いでありますけれども、なかなかセーフコミュニティの認証取得を達成するにしても、1つのアイデア、また他のアイデアがたくさんあります。こういったアイデアをバラバラにやるのではなく、まとめてシステム的にして取り組んでいくということが、成功のキーではないかと思っておりますし、またこういった新しいことをおこなうにはリーダーシップ、引っ張っていくエネルギーというのが大変必要だと思っております。

そういった意味では、各組織のリーダーにそれぞれ活躍いただきまして、セーフコミュニティについてみんなで考えていただきたいと思っております。そういった意味で、ここにがんばれと書いてあるのは、自分たちに対して、また周りに対して頑張ろうといいながらこれを実現していこうということでございます。

ご静聴ありがとうございました。

